

めざせ「ソーシャルナース」!

# 社会的入院を 看護する

石上 雄一郎  
飯塚病院連携医療・緩和ケア科

本来は入院加療の適応でない患者の長期入院を指す社会的入院。患者の医療的課題のみならず社会的課題もケアするために、看護師はどのような視点を持つべきか。医療と社会福祉をつなぐ「ソーシャルナース」(筆者の造語)になるために、看護師が押さえておくべき社会的入院の要点を解説します。

## 第2回 社会的入院の裏に隠れる課題・疾患を見つけよう



通院歴がない80歳男性。元々ADLは自立。数か月前から徐々に体力は低下し、全身のだるさを自覚していた。数か月ぶりに息子が本人と会うと痩せて動けない状況であり、救急要請された。採血上では明らかな臓器障害を疑う所見はなかった。診察上は認知機能低下を疑う所見があった。息子は遠方に住んでおり、「このまま家に帰って何かあっても困るから入院させてほしい」と話す。「医学的には治療できるものはないが、帰宅させるのは心配なのでひとまず入院させて様子を見る」と入院担当医は判断し、経過観察の方針となった。

今回のケースは認知機能低下を疑う所見があるものの、入院担当医が「治療できるものはない」と判断しており、一見すると考慮すべき医学的課題がないように思える。しかし、詳細なアセスメントをしていくと、治療・ケアすべき新たな課題が見えてくることもある。第2回では、初回で少し言及した社会的入院の裏に隠れる課題や疾患の可能性について解説する。

### 社会的入院の原因が何かを見極めよう

社会的入院をする患者に対応する際は、その原因を考えることが重要である。社会的入院は以下の5つの因子が複雑に絡み合った上で生じると言われているからだ(図)¹)。

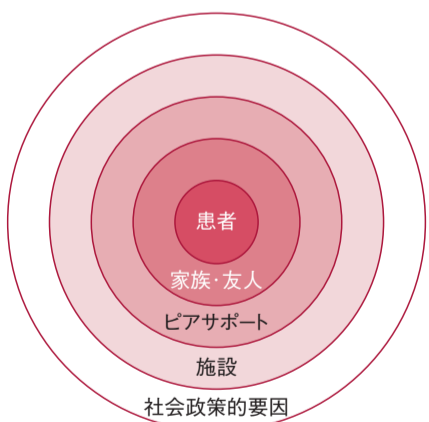
①患者：老年症候群やフレイルであることが多い。対応が不十分な痛み、認知機能低下、BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)、ポリファーマシーなどが入院の原因となることがある。

②家族・友人：介護者にはフォーマルとインフォーマルの2種類がいる。フォーマルな介護者とは、介護施設で働く、専門的な訓練を受けた、給料が支払われている介護職員を指す。一方、患者の家族・友人は患者本人との長期的な関係によってボランティアで介護を行っており、訓練を受けていない点でインフォーマルな介護者と言われている。介護の負担は大きく、介護者自身の健康にも影響を及ぼし、場合によっては仕事を休職・退職しなければならないこともある。介護と仕事の両立を支援する組織はまだ少なく、支援体制は十分とは言えない。

③ピアサポート：認知症やがんなどの重い病気にかかったことで社会的な場への参加が気まづくなり、仲間との付き合いがなくなる場合もある。そうしたケースでは、活動量が徐々に低下して最終的に動けない状態となって発見されることがある。一方、社会的な集まりに参加し互助がなされている場合や宗教上の横のつながりなどにより、独居でもサポートを得ているケースもある。

④介護施設：在宅医療、レスパイトケアなど正式なサポートは存在するものの障壁は多い。入居型施設の場合は入居するまでの待ち時間が長い。通常提供される介護レベルを超えた医療処置が発生すると、施設では十分に見てもらえない場合がある。また、終末期に近づくにつれて看護取りができないことや対応が困難であることを理由に介護施設を退所となり、帰る場所がなくなる利用者も多い。

⑤社会政策的要因：残念ながら利用できる社会福祉がなく、制度の間に落ちてしまう患者が存在する。他方、日本の社会福祉の歴史をみても社会的入院が発生しやすいと言われている。



●図 患者を取り巻く構造(文献1より改変して転載)

### ●表 入退院支援加算1および2の算定要件とされる退院困難な要因

- ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること
- イ 緊急入院であること
- ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること
- エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること
- オ 生活困窮者であること
- カ 入院前に比べADLが低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること
- キ 排泄に介助を要すること
- ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと
- ケ 退院後に医療処置(胃瘻等の経管栄養法を含む)が必要なこと
- コ 入退院を繰り返していること
- サ 入院治療を行っても長期的な低栄養状態となることが見込まれること
- シ 家族に対する介助や介護等を日常的に行っている児童等であること
- ス 児童等の家族から、介助や介護等を日常的に受けていること
- セ その他患者の状況から判断してアからスまでに準ずると認められる場合

このように社会的入院には複数の原因が存在する。そのため社会的入院が検討される患者への対応時はまずこれらを意識することから始めよう。前回でも触れたように、単一の因子にアプローチするのではなく患者を総合的にとらえる視点を持つことが重要となる。

### 早期から支援すべき退院困難因子とは

社会的入院の原因に着目した次のステップとして、退院支援時の留意点をみていこう。「入院で経過をみる選択肢」が執られた時点で、退院支援の方針を関係職種で共有しておくことが重要である。スタッフの対応が一貫していないと、入院が長期化してしまう可能性があるからだ。在宅での療養を希望する患者に対して支援を行った際に算定できる「入退院支援加算2」では、原則として入院後7日以内に退院困難な要因(表)を有する患者の抽出が求められている。冒頭のケースでは表のカ・クの退院困難因子がみられるため、以下の詳細なアセスメントを行い、早期からの退院支援を検討しよう。

#### ◆介護面

- 介護保険申請しているか?
- ADL低下により、新たなサービス導入が必要か?
- 退院後に医療処置が継続的に必要か?
- 頻回に入退院しているか?
- 入院しても長期的な低栄養が予想されるか?

#### ◆社会福祉面

- 生活困窮者か?
- 同居者から虐待やネグレクトを受けていないか?
- 家族にヤングケアラーはいないか?
- 患者が家族に対する介護を行っているか?

### 目の前の患者は本当に社会的入院なのか?

社会的入院を行う患者を詳細にアセスメントしていくと、新たな課題が見つかるケースに遭遇するだろう。高齢者は主訴が乏しく、症状も非特異的である。「動けない」「転倒しているところを発見された」「不穏」「全身がだる

い」「食事が取れない」「脱力感」「気分不良」など、わかりにくい症状を訴える(不定愁訴と呼ぶ医療者もいる)ことが多い。スイスの研究で「家で過ごせない」と特定の愁訴を持たずに入院した253人の高齢者のうち、129人(51%)が急性期医療の対象者であった²)。スウェーデンの研究でも、「地域支援が足りていない」と判断された380人のフレイル高齢患者の85%に身体疾患が確認され、1年以内の死亡率は34%であった³)。非特異的的症状は軽い症状としてトリアージされやすく、入院期間が長く、死亡率も高い⁴)。

このようにわかりにくい症状を訴える高齢者は、トリアージの際に緊急性が低く見積られることがある。社会的入院も例外ではなく、患者が医学的課題を抱えている可能性がある。対応する看護師はこの点を考慮して、ケアに当たるべきであろう。

### CASEのその後

入院後、アセスメントを詳細に行うと、以前から腹痛・背部痛が時々あったことがわかった。体重減少も認められたため、CT検査を施行したところ膵がんStageⅣの診断がついた。がんの進行により食欲がない状況であったことがわかった。救急外来で診断がつかず社会的入院とのラベルが貼られている患者に対応する際は、診断がついてない内科疾患が隠れている可能性を常に考えるべきである。

### 看護のPOINT

- 社会的入院は患者、家族・友人、ピアサポート、介護施設、社会政策的要因の5つの多面的問題が組み合わさって生じる。
- 患者が退院困難因子を有する場合は、早期からの支援を検討する。
- 社会的入院とのラベルが貼られた患者に、内科疾患が隠れている可能性を常に考える。

#### ●参考文献

- 1) BMC Geriatr. 2014 [PMID : 25129548]
- 2) Swiss Med Wkly. 2005 [PMID : 15832233]
- 3) Aging (Milano). 1999 [PMID : 10337444]
- 4) Acute Med. 2019 [PMID : 31912054]

論文作成にかかわる全ての人に必携。待望の最新版。

「APA方式の考え方を日本語論文の執筆にあてはめるとどうなる?」の疑問に答える!

**APA 論文作成マニュアル 第3版**

著 アメリカ心理学会 (APA)  
訳 前田 樹海/江藤 裕之

看護学で広く使われる論文作成のスタンダード。論文の構成・書式から、文法知識、偏見のない文章表現、引用文献と内容は多岐にわたり、論文そのものを作成するための基本が詰まっています。

■B5 2023年 頁472 定価: 4,620円(本体4,200円+税10%)  
[ISBN978-4-260-04812-5]

詳細はこちら

**APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版**

前田 樹海/江藤 裕之

『APA論文作成マニュアル第3版』の内容に沿って、論文執筆に必要な事項を厳選し簡単に説明しました。初めて論文執筆をする人がまず知りたい事柄が整理されています。

■A5 2023年 頁128 定価: 1,980円(本体1,800円+税10%)  
[ISBN978-4-260-05290-0]

詳細はこちら